

## 第2回阿南市魅力ある都市づくり審議会 会議録(要旨)

### ■開催概要

開催日時:令和5年1月31日(火) 10:00~12:00

場 所:阿南市役所 3階 303会議室

### ・出席者

委 員 9名(委員数9名)

オブザーバー 1名

事務局 12名(市8名、昭和株式会社3名、三井共同建設コンサルタント株式会社1名)

### 1. 開 会

開会挨拶(阿南市長)

### 2. 検討事項

(1) 第1回審議会の振り返りとまちづくりシンポジウム開催報告について(事務局から説明)

第1回審議会における委員の意見、まちづくりシンポジウムの開催結果について報告した。

(2) 市民アンケートの実施及びまちづくりワークショップの開催について(事務局から説明)

市民アンケート調査及びまちづくりワークショップ開催の概要について説明した。

図書館ワークショップ開催の概要についても報告した。

(3) 阿南駅周辺エリアへの図書館機能を始めとする導入機能等について(事務局から説明)

導入機能検討に至るプロセスについて説明した。

(4) 阿南駅周辺まちづくり今後の進め方(事務局から説明)

令和5年9月末の基本計画策定に向けたアンケート等の今後の取組について説明した。

(5) その他

なし。

(6) 意見交換

[委員]

・これから手がけるエリアに住まわれている地域の方々の内発的な意欲を盛り上げていくことが大事だと思う。その地域に対する思いを聞くプロセスが要り、これからの計画に反映していくことが大事だと思う。

[事務局]

・地元の商店街組織や商工会の方にワークショップの参加の声かけをするといった、意見を反映する仕組みを検討していきたい。

[委員]

・行政が公金を使って施設を管理して、市民は使うというような姿しか浮かばない。もっと民間活力をいれないのか。

・地元の地主の方の意見やカフェ等の投資をする側の意見を聞くと持続可能なエリアマネジメントの仕組みに繋がるようないい意見が出るのではと思う。

[事務局]

・公民連携のまちづくりは一つのコンセプトとして考えている。

・施設の運営や街を回していく人たちを育てていくことが持続可能なまちづくりに向けて重要なことだと思っている。ワークショップやトライアルサウンディングの実証実験を通じて、参加した方が将来的に担い手としてなってもらえるような仕組み作りを今後進めていきたい。

[委員]

・意見が反映されないワークショップでは市民は離れていく。意見が反映され、利益が返ってくるような準備をし、民間と市民の方が話し合い、色んなことができる仕組み作りを目指してもらいたい。

・一般的なアンケートは400～500人でいいと思うが、2000人とするという理由を知りたい。

・市内や県内だけではなく他県の人に意見を聞くことが重要。外の意見を取り入れると来てもらいやすい。そこに住んでいる方とのギャップも把握する必要がある。

[事務局]

・意見を全て反映するのは難しいが、意見とその意見の考え方についても今後の参考にすることが大事だと思っている。

・10万人未満の自治体のアンケートについては、三百数十人程度の回答が有効であるという考え方がある。30%程度の回収率とすると1200人程度になるが、安全をみて2000人を対象にしている。

[委員]

・阿南市にずっと住んでいる人と市外から来て住んでいる人では阿南市像は違うと思う。それを汲み取る質問をするのも一つのアイデア。外から来ている人たちは違うものを求めているかもしれない。

[委員]

・全国の人からネットアンケートで住みやすさや求めているもの等を質問するといった外からの意見を聞いた方がいい。人口減少するなかで、魅力があれば今の高校生たちも残ってくれるし、外からも来てくれるかもしれない。

[委員]

- ・アンケートをすると、受けているサービスに対しては非常に要望が高くなり、受けていないサービスに対しては要望が上がらない傾向にある。
- ・住んでいる方々と観光客の方々では関心の違いがある。居住歴の属性でクロス集計をすると意見として上がってくると思うので、そういう視点をもってやっていただきたい。

[委員]

- ・図書館の枠を超えていけるようなアイデアをきちんと出していけるような設計や聞き方が必要である。
- ・ワークショップなどにおいて、図書館というものに囚われすぎず、ユニークさなどを引き出すために少し違う視点でアプローチをした方がいい。

[委員]

- ・子育て中の方でも、図書館に対する使い方や考え方は幅広いと思う。

[委員]

- ・ウォークアブルの視点からで、駅東側に歩いて行ける3つの拠点があるなかで、それを結ぶ動線のしつらえについて具体的に検討していただいてもいいと思う。

[オブザーバー]

- ・アンケートでは、コアターゲットとなっている子育てファミリー層、また阿南市に就学や仕事をされている方の考え方や意見をしっかりと汲み上げていただきたい。
- ・5年先、10年先を見据えたまちづくりについての意見が汲み取れるようなアンケートの設問の仕方になればなおいいと思う。

[事務局]

- ・まちづくりビジョンでもコアターゲットとして市内外の子育てファミリー層を設定しており、市外あるいは県外在住経験のある方の意見を今後基本計画に取り入れていくことは大切だと思っている。
- ・図書館とどういう機能を複合させていき、駅周辺にどういった機能をどこに配置すれば周辺の活性化に繋がっていくかということを考える必要があると思っている。あまり図書館を前面に出さずに自由に色んな意見を出していただける進め方を検討していきたい。

[委員]

- ・長野県塩尻のエンパークという多機能複合施設があり、施設には2000~3000人がやって来るが、来た人は周辺の商店街等にはお金をほとんど使っていない。施設に来る人をどれだけ次に展開させるかというのが非常に大事に視点になる。
- ・新しい施設ができてても周りは全然変わらないということが一番よくないと思っているので、どのように面としてこのエリア全体を上げていくかという視点を持ち続けていただきたい。

[委員]

- ・阿南市は観光に弱い工業都市であり、働く場としては他市町村に比べると恵まれている。働く場が充実しているにも関わらず、若者の流出している原因の一つに娯楽がなく、楽しみがないことだと思う。
- ・阿南の街並みには飲食店が他の町に比べて少ないといったところで、ランチやディナーが気軽に食べられる賑わいのまちが欲しい。
- ・駅周辺を活性化するには、魅力のある施設があり、公共交通が充実する必要がある。
- ・コンパクトシティの一番の目的は経費削減であり、阿南市の限られた財源の中で魅力のあるまちにしていくためには、立地適正化計画に基づいたその街に利便性や楽しさといった部分を集めてくるような駅前周辺にしていきたいと考えている。

[委員]

- ・月曜から金曜日まで働いて土日は休みたい考えの人たちが大半ななかで、土日に娯楽施設で働く雇用はそこまで人がいないと思う。
- ・阿南では、土日に働いて観光客を迎え入れるという体制や考えにはなっていないように思う。観光客が増えると土日に店を出したりビジネスになってくるとは思う。
- ・複合施設で誰か来るかもしれないからやるといったリスクは取れないと思うが、一つのエリアからやろうとする飲食店が出てきて、点が広がって面になる可能性はあると思う。

[委員]

- ・地域を置き去りにしないで、今の地域の方々も巻き込んで受け皿となってほしいという意味で、自分の中で起こった意識の変容を一つの目標にしたらいと思う。
- ・今ある既存のアイデアを吸い出すだけでなく、どんどん植え込んで意識の変容を与えていくような見せ方や目的を考え、将来の阿南市のまちづくりに繋げていく一つのきっかけになればいいと思う。

### 3. 閉会

閉会挨拶(阿南市長)